

# 令和6年度 小野小学校 学校自己評価報告書

達成度評価： A=目標達成 B=目標に近づいた C=まだ残念な状況 D=次年度の大きな課題

達成値=評価4と3の合計の割合(%) 網掛けは相対的に低い項目

評価項目	番号	評価内容	児童達成値	保護者達成値	自己評価達成値	達成度評価
（徳育） （えいご）	①	子供たちとの対話を大切に、温もりや居場所のある学級づくり、自己肯定感を高める言葉かけや関わりを継続している。	82%	85%	85%	A
	②	ふわり言葉や「くん-さん-ちゃん付けの呼び名」などの定着に努め、子供同士の関係が和やかになる指導を継続している。	69%	83%	81%	
	③	人の痛みや喜びに共感する心、人の厚意に感謝する心など、「他者との共生」を意識した指導を継続している。	80%		85%	
	④	あいさつ・返事、素直な「ありがとう・ごめんなさい」、時間や約束を守るなど、人としてのマナーの指導を継続している。	81%		88%	
	⑤	後片付け・無言そうじ・トイレスリッパ・廊下歩行など、公共のルールの意識を高める指導を継続している。	80%	84%	90%	
（学習） （しじゆ）	①	めあてとまとめを大事にして書く活動を重視し、端末やデジタル教科書を積極活用するなど、「主体的な学び」を意識した授業づくりを進めている。	79%	82%	84%	B
	②	ペアやグループなど、学年に応じて協働的な交流活動を取り入れた授業を行っている。	88%		84%	
	③	遅れがちの子、早く終わってしまう子など、個別の支援や手立てを要する子への対応を行っている。	82%	72%	78%	
	④	「よい子の筆箱」などの学習準備、授業の終始、姿勢、聞く話すの約束などの学習規律について定着のための手立てを継続している。	76%	76%	86%	
	⑤	「家庭学習時間＝学年×15分」を共通理解として、「自学」「家読」を含めた家庭学習が習慣づくように、発達段階に応じた指導や励ましを継続している。	74%		80%	
（体育） （たいいく）	①	感染症予防（うがい・手洗い・換気）の指導を継続している。	89%	85%	87%	B
	②	登下校の交通安全や校内事故防止など、安全意識を高める指導を継続している。	92%		82%	
	③	望ましい生活習慣（早寝早起き朝ご飯・洗顔と歯磨き・メディアコントロール等）の指導を継続している。	73%	81%	79%	
	④	体力づくりの活動（体育・行事など）や外遊びについて、励ましや指導を継続している。	73%	80%	80%	
	⑤	給食指導を中心に、望ましい食習慣をつくる食育指導を継続している。	80%		83%	
と家庭や地域連携	①	連絡帳・電話連絡・保護者面談・家庭訪問などにより、家庭との相互理解・連携を図っている。保護者もそう感じている。		83%	87%	B
	②	各種たよりや学年・学級メールなどで、学習や諸活動の様子について保護者に発信、情報提供することができている。保護者もそう感じている。			78%	
	③	家庭学習・家庭読書・メディアコントロールなどのよりよい習慣づくりについて、継続的に保護者に働きかけることができている。保護者も共に取り組んでいる。		78%	76%	
	④	育友会の役割や地域との関わりの大切さを認識し、可能な範囲での連携と協力に努めている。保護者もそう認めている。			74%	
学校運営	①	学校教育目標、めざす児童像や授業像、重点努力事項を理解し、それを受け止めた学級経営や教科指導、分掌業務に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		81%	89%	A
	②	分掌部会で複数人の知恵を出し合うなど、チームの連携、組織力の向上を意識して業務に取り組んでいる。協力的な組織であることが保護者にも伝わっている。		81%	88%	
	③	小野地区の特性理解に努め、地区のよさ・特色・人材を生かした教育活動を、可能な範囲で積極的に取り入れている。		81%	78%	
	④	清掃指導の充実や整理整頓、掲示物の整備や工夫、学習園やブランターの活用など、教育の場としての環境整備に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		82%	79%	
チーム小野	①	「どの子も愛し、どの子も伸ばす」という教育愛と使命感を持って職務に努めている。			90%	A
	②	「同僚とともに研鑽に励む」「互いに学ぶ」意識で研修に取り組み、授業に生かそうとしている。			90%	
	③	常に人に見られていることを意識して言動に留意し、不祥事とは無縁の「信頼される教師」であるように努めている。			92%	
	④	管理職も含めた職員間の「報-連-相」を意識した連携協働と、一体感と同僚性が感じられる職員集団づくりに、自分自身も意識して参画している。			94%	
その他		児童「楽しい」・保護者「通わせたい」・職員「働きやすい・働きがい」の満足度	84%	82%	94%	A

## 学校自己評価考察（成果と課題）

○児童・保護者・職員のアンケート結果は、全体としておおむね良好な数値といえる。  
 ○職員の自己評価から、職員の共通理解のもと、経営方針に則った学校運営が推進されていることがうかがえる。  
 ○児童への言葉かけ、他者との共生、マナー指導について、共通実践がなされていると感じる。  
 ○「チーム小野小」の全ての小項目で、自己評価が高評価になっていることは、職員の一体感と教育に対する思いの向きが揃った体制が継続して整っていることを感じる。  
 ○職員の働きやすさ・働きがいの満足度94%達成は、未だ十分とは言えないが、本校の働き方改革・働きがい改革がよい方向に進んでいることを示している。  
 ●学校としては努力しているが、学習の準備、家庭学習の取組については児童や保護者の達成感を得るまでには至っていない。  
 ●例年と同様ではあるが、個別支援（知-③）の項目は「分からない」の回答が多く、学校の努力が保護者に伝わりにくい。  
 □児童の声として、「先生に励まされるとやる気が出る。」というものが多かった。一人一人を認め、地震と意欲を育てる積み重ねを継続したい。

## 次年度への改善策

□心の教育を今後も学校経営の根幹に据えて、豊かな心を育む教育活動(思いやり、言葉遣い、あいさつ、マナーなどについて)を継続し強化を図っていく。  
 □伸ばしたい学力について、データを分析しながら職員で共有し、有効な指導法を実践しながら学力向上を図っていく。  
 □学校のスタンダードを保護者とも共有し、学習準備を整えてスタートラインをそろえるとともに、児童の活躍の場を保障するための学習規律を確立する。その指導の継続と強化を図る。  
 □平日の家庭時間のメディアコントロール、学年×15分の家庭学習時間の確保については、今後も育友会・保護者との連携を図り、一層積極的な指導に当たっていく。  
 □体力づくりに関わって、日常的な運動や体育の学習を中心に季節に応じた体力増進を意識した取組とともに食育に力を入れていく。

## 学校関係者評価委員の意見

○学校と地域のつながりで夏に地域懇談会を行っていた。民生委員と保護者も集い、学校との顔を合わせる場であった。今年度から廃止となったが、地域から見たら残してもらいたい。  
 ○地域でのつながりを保つよう新聞の発行やラジオ体操の取組から働きかけているが、難しい。どの人が保護者なのかもわからない状況である。つながる場がなくなるのは寂しい。  
 ○子ども会の参加率や教師の働き方改革などを考慮し、廃止となった。参加者が子ども会加入者しかおらず、子ども会の中で動いてもらえたらと思う。  
 ○何十年もまえのことと同じことはできない。教育現場は忙しい。最適解をもとめる話し合いがあればよいと考える。  
 ○学校横の横断歩道について、大型車の通行も多く、夕方の子どもの横断が危ない。信号設置の動きはあるか。  
 ○子どもの言葉づかいについて、呼び捨ては地域性もあるようだ。親しみを込めて呼び捨てで呼ぶのだろう。

## 関係者評価を受けて

○教師の日常の業務、教材研究、登校対応、保護者対応、ICTをはじめとする各種研修などを考慮すれば、忙しすぎる状況は大きな問題である。参加者が限られ、育友会の学級懇談会で連絡できる内容であることから、育友会との協議のうえ、地区懇談会は廃止という選択をした。  
 ○横断歩道は信号がなく、急いでいる車も見受けられ、横断に注意が必要である。保護者や地域と連携しながらできる範囲で登校の安全指導は行っているが、今後も育友会、交通安全指導員と協力して見守りを進めていく。信号設置については近くに信号があるため、設置が可能か不明であるが警察にも問い合わせる。  
 ○あいさつ、言葉遣いについては、学校、家庭、地域で共通課題として今後も指導していきたい。